資料４

（仮称）町田市北部丘陵活性化計画アクションプラン　多世代意見交換会の概要

（1）趣旨

アクションプラン策定にあたり、小学校等と連携し地域で活動する子育て世代、北部丘陵の資源を活かして積極的に活動する若年世代など、北部丘陵に関わる多世代からの意見を集めることを目的に、２０１６年１２月９日に意見交換会を開催し、北部丘陵のあるべき姿等について意見を交わしました。なお、参加者については、アクションプランの重点事業である「（仮称）北部丘陵まちづくり推進ネットワーク」の構成要素である小さなプラットフォームの形成を見据えて声掛けしました。

（2）参加メンバー

北部丘陵整備課が主催する市民協働事業に関わったことがある方７名

性別：男性４名、女性３名

年代：３０代～50代

活動内容等：新規就農者３名、里山保全活動ボランティア４名

（3）主な意見

・北部丘陵の将来を見据えた前向きな意見が多く出されました。主な意見は以下のとおりです。

○北部丘陵での活動内容・活動の担い手

・自分も民有地を使わせてもらい子どもたちへ環境教育を行っているが、活用されていない民有地を活かすため、活用アイデアがある人が継続的に使えるようになるとよい。

・保全活動等を実施するにも、地元とのつながりは非常に大事であると感じている。地域に住む自分が地域と活動団体とをつなげる役目になり、たとえ時間がかかっても、受け入れてもらうために地域のお手伝い等を積極的に行いたいと考えている。

・北部丘陵の活動の担い手はボランティアだけでは限界があると考えるため、10年後、20年後の将来をイメージして人を育ててはどうか。（里山管理に使用するチェーンソーは、ボランティアには扱うことができない等）。

・自分たちが携わっているように、北部丘陵において里山を活かした仕事がもっとあるとよい。ただし、その内容については、北部丘陵の生態系を保つ観点から監視役が必要で、行政だけでも民間だけでもないネットワークがその役目となるのが良いのではないか。

○生態系の保全

・北部丘陵の中でも守るべき場所は鶴見川の源流である。生態系を守るために化学肥料の使用を極力控え、上流部の源流を守り、下流に影響を及ぼすことがないようにしたい。

○自然を活かした集客

・北部丘陵の最大の利点は都心から一番近い自然であることである。自分の農園に都内から訪れる多くの人が北部丘陵の自然に驚く。北部丘陵には可能性があるため、対外的にもっとアピールしていくべきだと常々感じている。

・例えば、北部丘陵の中にマウンテンバイクの走るコース等を確保できれば、里山保全活動とセットにした活動が行える可能性がある。まずは、地域で行動を起こしたらよいのではないか。たとえ問題が起こったとしても、自分たちも含め地域で結束すれば、問題解決できるのではないか。